

大学との定例懇談会（第2回）議事概要

1 日時 平成30年11月26日（月）16:00～17:40

2 場所 都庁第一庁舎7階大会議室

3 出席者

（懇談会メンバー）

青山学院大学	三木 義一	学長
お茶の水女子大学	千葉 和義	副学長
国士館大学	佐藤 圭一	学長
駒澤大学	長谷部 八朗	学長
首都大学東京	上野 淳	学長
上智大学	曄道 佳明	学長
中央大学	大貫 裕之	副学長
津田塾大学	高橋 裕子	学長
電気通信大学	阿部 浩二	副学長
東海大学	山田 清志	学長
東京大学	藤井 輝夫	副学長
東京医科歯科大学	渡邊 守	副学長
東京外国語大学	林 佳世子	副学長
東京藝術大学	澤 和樹	学長
東京工業大学	芝田 政之	副学長
東京農工大学	大野 弘幸	学長
東京理科大学	平川 保博	副学長
東洋大学	高橋 豊美	副学長
日本体育大学	具志堅 幸司	学長
法政大学	廣瀬 克哉	副学長
立教大学	郭 洋春	総長
早稲田大学	田中 愛治	総長

※2校欠席

（東京都）

小池東京都知事、長谷川副知事、猪熊副知事、多羅尾副知事

梶原政策企画局長、遠藤総務局長、武市財務局長、久原総務局理事

4 議題

- (1) 国際化の推進
- (2) 大学を中心としたまちづくり

5 議事概要

小池知事からの挨拶の後、東京都からの報告事項として、前回の懇談会の中で意見・提案のあった「都市ボランティアへの大学単位での申込みの実施」「2020 年度教員採用選考日程の変更」を報告。加えて、新たに「東京都オープンデータアプリコンテスト 2018」の実施について説明。

その後、議題(1)(2)について、意見交換を実施。

主な意見等は以下のとおり。

【国際化の推進】

(留学生の活躍等)

- ・ 創立 130 周年を機にビジョンを作成し国際化を推進。全学学生の約 1 割にあたる数の留学生を受け入れ。留学生サポート体制の整備、留学生を講師とする英会話演習の実施、留学生支援チューター制度などを実施するとともに、これらの取組の充実のため、国際交流拠点のハード整備も推進（2020 年度末完成予定）。
- ・ 地域の方の留学生への理解、留学生が地域の方に歓迎してもらう意味を含め地域交流会を実施。その他、留学生の日本スピーチコンテストも実施しており、好評を得る。
- ・ 留学生の国内就職支援として、ビジネス日本語教育、キャリア教育、インターンシップの展開などを積極的に実施。インターンシップへの参加機会の提供では、地方都市の大学とコンソーシアムを組み、参加機会の提供、支援を実施。都とも留学生のインターンシップ先の開拓、会社説明会の実施など連携を希望。
- ・ 留学生を多く受け入れ、送り出す要因として、英語だけで卒業できる英語学位プログラムを整えていることがある。課題は、留学生が母国に戻って英語しかできないこと。そのため、日本語教育研修センターで、全国最大規模の日本語教育を実施。その他、日本語を母国語とする学生に英語の発信力のトレーニングを必修としていきたい。特に、ライティングについて力をいれるなどの取組を実施。
800 人入ることのできる国際学生寮を整備しており、4 人 1 ユニットで、2 人は日本育ち、2 人は留学生という取組を実施。
2020 オリンピック・パラリンピック大会のボランティアについて、留学生にできるだけ多言語ボランティアに参加してもらえよう、できる限り多く募りたい。
- ・ 2024 年に創立 150 周年を迎えるため、今までの国際化戦略を更に一步推進する政策を掲げる。これまでに、ネパールの小学校と国際交流事業を行う小学校で、留学生が授業をサポート、区内外国人が日本人家庭を訪れ交流する制度に留学生を積極的送り出すなどの取組を実施。岩手県陸前高田市にグローバルキャンパスを開設し、海外大学の学生が陸前高田市をフィールドとして災害への認識、復興支援を体験できる場を提供。
- ・ 都は、世界の大都市とも交流があるので、大都市間の協定のスキームの中で、エラスムスに近いものを作ることを希望。大学が学生を受け入れ、派遣する周辺装置を都がイニシアチブをとって実施できないか。また、東京大会後の施設を活用し、大学・若者が集えるような場所の提供を都がイニシアチブをとって推進を。

(多文化共生)

- ・多様な価値観が存在する環境において、新しい芸術表現で未来を切り開く人材を育成するため、例えば英国王立音楽院との交流演奏会やベルリン・フィルハーモニー・カラヤン・アカデミーと人材育成に関する協定を締結するなど、さまざまな取組を実施。
- ・東京の外国人住民数は非常に増えており、その方々が犯罪に巻き込まれる事案も増加。その人たちの権利を守るためにも、司法の場で通訳を問題なく行う事は大きな課題。そこで他大学とも連携し、技術的な言語の面と法知識の両面からサポートする司法通訳養成講座を開設。学園祭で、通訳人を介した模擬裁判も実施。都内で非常にニーズのある分野と認識。
- ・地域の小・中学校の国際理解教育という科目に特に東南アジアの学生を派遣し、異文化理解を促進するほか、留学生と日本人がパートナーを組み交流を促進する言語交換プログラムなど、多文化共生の取組を実施。
東京マラソンでは、多言語対応ボランティアということで多数学生が参加。
- ・在学生在協定校からの交換留学生について役所へ同行し、住民登録手を補助するなど、生活のさまざまな場面をサポートする国際交流ボランティアという取組を実施。さらに、留学生の防災・減災への認識を深めてもらうため、通訳解説をしながら消防等による防災体験を実施。

[知事] 日本、そして東京の大学に世界の若者をどう引き付けていくのか。残念ながら、世界の大学ランキングでは厳しい状況。皆様が頑張れる環境作りを進めたい。留学生の適切な受入は、東京の多様性、質を深める意味で大変有意義。各大学の努力に敬意を表しつつ、さらに発展を図れるよう手伝いができればと思う。

【大学を中心としたまちづくり】

- ・区の主導で、駅からの通りを一方通行化する計画あり。一方通行化により狭い歩道を拡大し、パークロードのような道路にする計画。無電柱化も実施予定。無電柱化により道路に置くことになる変圧器を大学のキャンパス内に受け入れるなど、キャンパスと道路の一体化というものを模索。
今年で13回目だが、まちかど回遊美術館を実施しており、大学もさまざまな形で協力。その一環として、大学内にある江戸川乱歩記念大衆文化センター、旧江戸川乱歩邸を一般の方々に開放。
- ・区内の近接する5大学で高等教育連携強化コンソーシアムをスタート。区と大学一対一ではなく、面として5大学連携しながら区等と連携を展開することを目指し、4月に発足。都内大学と地方圏の大学の交流を推進する事業があり、沖縄の学生に東京でフィールドワークをしてもらう、また来年には東京の学生が沖縄でフィールドワークすることを予定。
- ・地方連携、地域貢献に注力。スポーツフェスティバルを実行委員会形式で実施し、委員に地域の方も入り、学生、教職員、地方の皆様と三者一体で実施。小学校の夏休みの自由研究を支援する取組や、近隣の小、中学校への授業協力も実施。現場からは、これらの取組をもっと連携をしたいという声が強い。他大学との連携も考えているが大学と接点がなく、接点、情報を希望する意見があるので、都のバックアップを希望。その他、地域社会に開かれた研究拠点としてラボラトリーを立ち上げ、区との連携し取組を推進。さらに、大学として初めて、社会福祉の推進に関する包括協定を区の社会福祉協議会と締結し、協定に基づき取組を実施。

- ・自治体からもさまざまな要望があり、大学としても地域、まちづくりに貢献したいと考えるが、その場合、大きな障害の一つが固定資産税。地域のために協力しても、思わぬ固定資産税負担がリスクとして発生。
東京都がまちづくり、地域貢献と大学の固定資産税のあり方について検討することを希望。
- ・イノベーションキャンパスの実現を目指す構想を準備。キャンパスに社会連携、産学協創、研究支援機能を配置。プロムナード部分を民間事業者も入れる場にし、新しい知と人材が集まる活性化した場をつくりたい。
また、別キャンパスでは、整備計画の一部を見直し、戦略的活用スペースを確保。改正法を活用し、民間への貸付等を想定した形で整備を検討。これらの取組の推進には、地域、地元自治体との協力が重要であり、都とも連携を希望。
- ・近接する地域には、非常に狭い路地と石畳、伝統的な木造建築があるが、防災的には危険な状況。まちを保全した上で、どう防災を進めていくかは重要な視点であり、シミュレーション解析なども実施。地域の老舗の女将さん会とも連携し、まちづくりを推進。また、外堀について、5大学と連携し、再生について調査検討を実施。
- ・区が資金的な負担をし、大学が運営する形で「こども園」を開設。キャンパス内に設置し、園庭だけでなく、大学全体を保育の場としている。安全な本館中庭などでは、子どもが駆け巡っている。子どもの成長を、1冊のポートフォリオという形でまとめ、保護者との往復書簡も加えて、発達段階をしっかりと共有。
- ・地域に開かれた大学を目指しており、さまざまなイベントを地域と一緒に実施。そのうち「こども食堂」の取組を紹介。アメリカンフットボール部の学生、情報学専攻の学生が中心となり、こども食堂、フードバンクなどと連携し実施。今年は「食と運動からこどもたちに笑顔を」というテーマで開催。子ども達とミニゲームを行い、さらに本学で研究している都市型スマート農業の栽培システムを見学した後、食堂で食事。このような地域との交流活動を、教職員、学生の協力を得つつ維持したいと考えており、そのためにも中心となるリーダーの育成が次の課題と認識。
- ・オリンピック会場に世界一近いキャンパスということで取組を展開。学生が何か地域に貢献したいということで、学生を主体としたプロジェクトを実施。一つは、小大連携として、近隣の小学校において、子ども目線の「あんしん」マップを開発。AIに記憶させ、再学習させ、外国語に直した上で外国人対応できるマップを小学生とともに開発。もう一つが、将棋会館、国立能楽堂を連携し日本文化を発信するプロジェクトを実施。将棋会館が作成した将棋のノウハウのパンフレットを学生が英語に訳し、それを世界に向け発信しており、お金は取れないが、相当の需要があるとのこと。
また、福井県鯖江市と協定を締結し、伝統工芸に関して新商品の開発企画を実施。本学を拠点に国際発信を実施。
総合政策学部のデータサイエンスや情報科学を専門とする教員が主となり、外国人、日本人旅行客の、天候による影響等を調査するインバウンドの人流計測を実施。
現在、東京体育館を工事しておりイベントが全くなく、商店街の売上げが半減。また商店街の高齢化も進み、東京大会まで商店街が維持できないのではと危惧しており、どのようにエンカレッジするかが、地域の大学に課せられていると認識。何とか2020年までこの地域を存続し、2020年に最高の形でオリンピックを迎えたい。

- ・中間計画のさらに先、2030年を見据えた目指すべき姿を学内の若手、中堅の教職員の意見も集めながら策定。その4つの柱のうちの1つに、学びや交流の場を広く提供し、地域と社会の活性化に貢献する大学ということを掲げている。具体的には、プレミアムカレッジの開講等による、生涯学び続ける社会の実現への貢献。また、区と共同で「ころばん体操」を開発し高齢者の筋力向上に成果を上げた。さらに、多摩振興に可能性を見出すことを目的としてフォーラムを継続的に開催、多様性に富んだ生態系を有する緑地を研究フィールドとしつつ、地域の方々と協力した保護活動を展開するほか、市と協力して多摩ニュータウンの再生活活性化に向けた研究プロジェクトを展開するなど、さまざまな取組を実施。
 - ・旧博物館動物園駅の駅舎リニューアルオープン、旧東京音楽学校奏楽堂のリニューアルオープンなどにより、それらの近辺は新しい観光スポットになっている。その旧東京音楽学校奏楽堂の前に公衆トイレがあり、景観上問題があることから移築を希望。東京国立博物館から谷根千に抜ける道路について、来年のテスト期間、オリンピック・パラリンピック期間だけでも歩行者優先道路にできないか提案。大学では、鉄柵を取り除き植栽でやわらかに区切るプロジェクトも実施。
 - ・大学周りに商店街が多くあり、以前学生たちは外で食べていたが、最近はコンビニ弁当を食べるので、店舗がどんどん閉店する、高齢化して閉店する、商店街がだんだん消えていくという状況。商店街と連合を組み、1つの取組として学内で弁当を販売しているが、もっと有効な策はないかと検討中。学生のライフスタイルも変化しており、今後の我々が取り組まなくてはならない課題と考えており、知恵を拝借したい。
- [知事] 地域にあってその大学が光る、もしくは大学があってその地域が光るという、ウィンウィンの関係ができるように後押ししたい。
- 国会議員時代には、無電柱化を推進するための法律づくりに携わり、都では条例をつくっている。またブロック塀が倒れて危険だということで木材を使ったらどうかと、日本中の森林を活性化させる共存共栄の観点からも推進。まちづくりに関する取組・発言は、まちの質を高める、付加価値を高めるということで都と方向性は同じ。できることできないことはあるが、この場で要望を伺っていきたい。また、話を聞いたままということではなく、一つひとつ丁寧に連携を推進したい。

以上